

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報
2024

仙台市富沢遺跡保存館
SENDAI CITY TOMIZAWA SITE MUSEUM

仙台市縄文の森広場
SENDAI CITY JOMON SITE PARK

目 次

目次
例言

地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要	1
2. 組織・運営	1
3. 沿革	2
4. 整備の目的と基本方針	8

〔地底の森ミュージアム〕

1. 令和5年度事業報告	12
(1) 展示事業	12
(2) 普及啓発事業	15
(3) 調査研究事業	21
2. 施設管理	21
(1) 保守点検	21
(2) 施設・設備などの修繕	21
3. 利用状況	22
4. 入館者アンケート	23
5. 令和6年度事業計画	23
(1) 展示事業	23
(2) 普及啓発事業	24
(3) 調査研究事業	26
(4) 資料の収集・保管	26
(5) 管理運営	26
(6) 刊行物	26
6. 利用案内	27

〔仙台市縄文の森広場〕

1. 令和5年度事業報告	29
(1) 展示事業	29
(2) 普及啓発事業	31
(3) 体験活動事業	34
(4) ボランティア活動事業	34
(5) 調査研究事業	35
2. 利用状況	36
3. 入館者アンケート	38
4. 令和6年度事業計画	38
(1) 基本方針	38
(2) 展示事業	38
(3) 普及啓発事業	38
(4) 調査研究事業	40
(5) 資料の収集・保管	40
(6) 管理運営	40
(7) 刊行物	40
5. 利用案内	41

例 言

1. 本書は、公益財団法人仙台市市民文化事業団が仙台市より指定を受け、令和5年度に実施した仙台市富沢遺跡保存館指定管理業務（仙台市縄文の森広場を含む）の各事業などに係る実施報告と、令和6年度事業計画である。
2. 本書の編集は地底の森ミュージアムの阿部和宣、仙台市縄文の森広場の阿部淳一が行った。

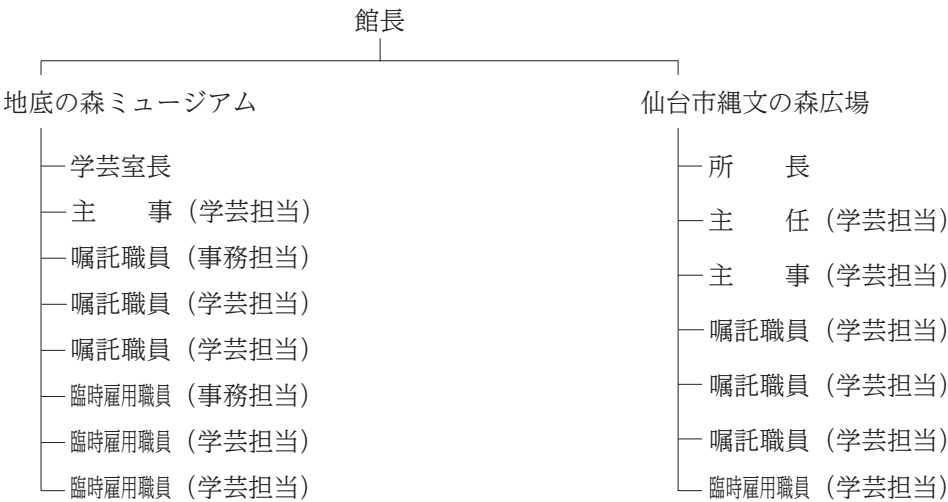
地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
開 館 日	1996年(平成8年)11月2日	2006年(平成18年)7月15日
設置場所	〒982-0012 仙台市太白区長町南四丁目3-1	〒982-0815 仙台市太白区山田上ノ台町10-1
敷地面積	14,263㎡	27,350.94㎡
延床面積	2,743㎡	1,211.78㎡
建築構造	地下1階 地上1階 鉄骨鉄筋コンクリート	鉄筋コンクリート造一部2階建
特 徴	建物は、コンクリート打放しの楕円形をしている。周囲の壁は地下の遺跡の保存と公開のために、建物基礎を兼ねた厚さ80cmの連続地中壁であり、それを地下20mまで築いて地下水を遮断する構造である。 建物内部については、地下の遺跡展示室は柱のない広がりをもった大空間となっており、中地下も含めて、床にはアスファルトブロックが敷かれ、照明を抑えて清謐な雰囲気になっている。対照的に1階は床を板張りとし、自然光を取り入れた明るい空間となっている。中でも、来館者にとっては最後の空間となる展望ラウンジは窓を大きくとり、そこからは野外展示の氷河期の森が眺められるようになっている。	野外には、復元した竪穴住居3棟を中心にその他の遺構を表示し、環境とともに集落を再現した縄文ムラゾーンと、未調査区でイベントや発掘体験などを行う広場ゾーンがある。 その北側の一面に出土資料などを展示し、各種体験活動ができるガイダンス施設を付設している。

2. 組織・運営

両館の管理・運営は、仙台市より令和4年度から令和8年度までの5ケ年間の指定管理者に指定された公益財団法人仙台市民文化事業団が行っている。令和6年4月1日時点の職員配置は下記のとおりである。



なお、地底の森ミュージアムは受付・案内業務、常駐警備業務、清掃業務を、仙台市縄文の森広場は清掃および復元住居の火焚き業務を民間に委託している。

3. 沿革

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
1980年 昭和55年		宅地造成にともなう山田上ノ台遺跡の発掘調査で、縄文時代中期末を主とする竪穴住居跡などの多数の遺構が発見され、集落構造の全体がわかる遺跡の重要性から保存を決定する。 遺跡の活用を図るための「(仮称) 原始古代村構想」の検討がスタートする。
1982年 昭和57年	地下鉄建設にともなう試掘調査で富沢遺跡が発見される。	
1984年 昭和59年		旧石器時代資料の充実を図るために第2次調査を実施する。
1988年 昭和63年	富沢遺跡第30次発掘調査において2万年前の人類の生活跡と森林跡が発見され、仙台市は遺跡の重要性に鑑み、小学校の建設地を変更し保存と活用を決定。	
1989年 平成元年	保存科学・地質学・遺跡整備・都市工学・動物生態学など各界の学識者からなる基本構想策定委員会を設置し、富沢遺跡と山田上ノ台遺跡とともに活用する方針で「仙台市旧石器の森・原始古代村の整備および仙台市考古系総合博物館基本構想報告書」を策定。	
1990年 平成2年	「基本構想」において検討課題であった遺跡の保存処理工法について「富沢遺跡保存技術調査報告書」(仙台市考古系総合博物館基本計画)を策定。	
1991年 平成3年	「(仮称) 原始古代村・旧石器の森整備基本計画」を策定。	
1992年 平成4年	富沢遺跡保存館の建築基本設計、展示基本設計、富沢遺跡保存処理方式開発の業務委託、氷河期の森広場整備基本設計を行った。	
1993年 平成5年	富沢遺跡保存館の建築・展示実施設計、氷河期の森広場整備実施設計、遺構保存処理システム策定業務委託を行った。	
1994年 平成6年	富沢遺跡保存館の建設工事に着工。	
1995年 平成7年	正式名称が「仙台市富沢遺跡保存館」、愛称が市民公募をもとに「地底の森ミュージアム」と決定。	
1996年 平成8年	4月1日より富沢遺跡保存館の管理・運営は仙台市より委託された(財)仙台市歴史文化事業団があたることとなり、その組織ができた。建築工事および展示工事が3月に完了。また、遺構保存処理作業は8月、「氷河期の森」の造成工事は8月、植栽工事は10月に完了。11月2日に開館する。	
1997年 平成9年	5月18日 天皇皇后両陛下ご来館。	
1998年 平成10年	3月7日 入館者10万人達成。	
2000年 平成12年	4月15日 入館者20万人達成。	山田上ノ台遺跡の活用整備のために「縄文の森広場基本計画策定委員会」が設置される。
2002年 平成14年	8月24日 入館者30万人達成。	第3次発掘調査により後期旧石器時代の石器が多数発見される。

2004年 平成16年	4月1日 管理・運営する(財)仙台市歴史文化事業団が(財)仙台市市民文化事業団に統合されたことにより、事業団が指定管理者となる。	「仙台市縄文の森広場」の建設工事が始まる。
2005年 平成17年	5月19日 入館者40万人達成。	第4次発掘調査
2006年 平成18年		「仙台市縄文の森広場」が完成。7月15日に開館する。 第5次発掘調査開始
2007年 平成19年	9月11日 入館者50万人達成。	7月15日 開館1周年記念イベント開催(記念植樹や演奏会などで祝う)。
2009年 平成21年		5月4日 入館者10万人達成。
2010年 平成22年	6月12日 入館者60万人達成。	
2011年 平成23年	3月11日 東日本大震災により休館。 6月14日 再開。	4月12日 再開。
2012年 平成24年	4月1日 管理・運営する(財)仙台市市民文化事業団が公益法人となる。	8月7日 入館者20万人達成。
2013年 平成25年	9月14日 入館者70万人達成。	
2015年 平成27年		11月3日 入館者30万人達成。
2016年 平成28年	6月12日 入館者80万人達成。	
2017年 平成29年	2月18日・19日 地底の森ミュージアム 開館20周年・仙台市縄文の森広場 開館10周年を記念して、シンポジウムを開催。	
2018年 平成30年	9月22日 入館者90万人達成。	
2019年 平成31年		4月30日 入館者40万人達成。
2020年 令和2年	4月11日～5月17日 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館。	
2021年 令和3年	3月26日～5月11日 8月31日～9月12日 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館。	
2022年 令和4年	3月17日 福島県沖地震復旧作業のため臨時休館。 7月9日 入館者100万人達成。	
2024年 令和6年	3月13日 仙台市富沢遺跡保存館・全谷先史博物館 国際文化交流協約を締結。	



地底の森ミュージアム キャラクター
富沢博士



仙台市縄文の森広場 キャラクター
ハナちゃん

[地底の森ミュージアム]



地下展示室



外観



1階展示室

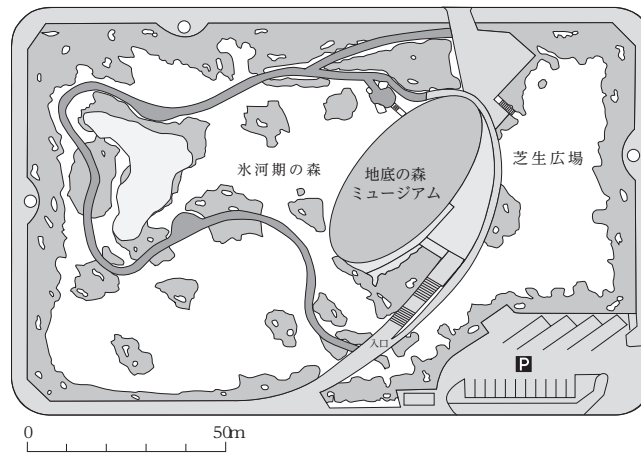


氷河期の森(夏)

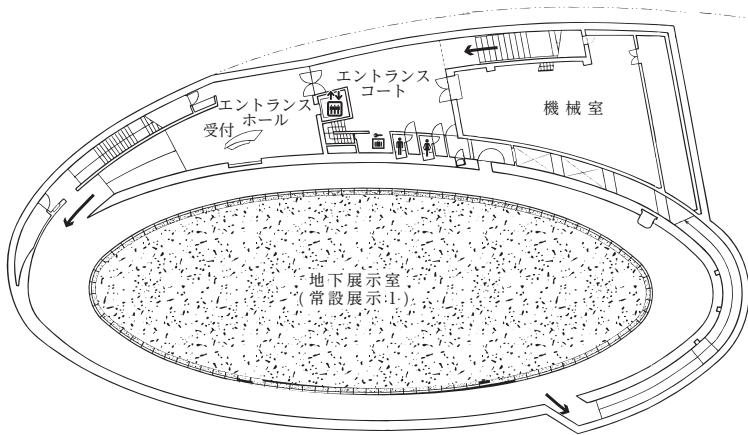
各室面積表

(㎡)

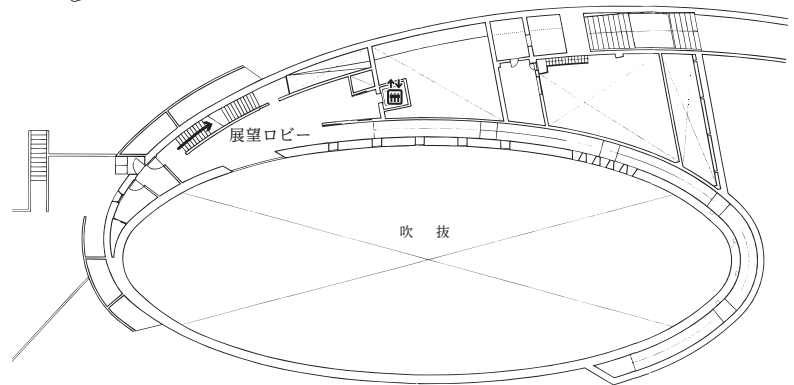
地 下	・地下展示室(常設展示1) ・エントランスホール ・エントランスコート(半野外) ・トイレ ・倉庫 ・機械室 ・E Vシャフト ・その他	916 113 76 9 15 185 6 14
地 下 中 地 下	・スロープ ・階段	124 31
中 地 下	・展望ロビー ・E Vシャフト ・その他	74 6 59
1 階	・1階展示室 ・企画展示室 ・展望ラウンジ ・研修室 ・事務室・学芸室 ・収蔵庫 ・荷解室 ・自販機スペース ・ボランティア室 ・廊下 ・階段ホール ・トイレ ・エントランス ・守衛室 ・機械室 ・E Vシャフト ・その他	311 87 170 78 99 58 17 6 7 28 81 45 7 6 40 6 18
ピット階 (21㎡)		21



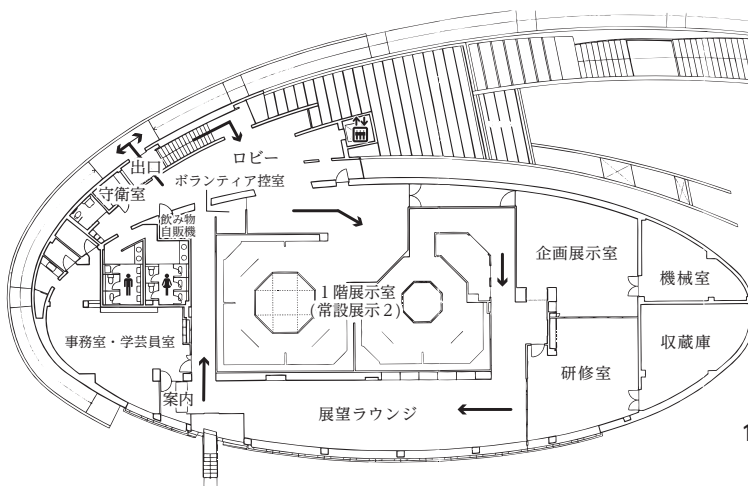
全 体 図



地下平面図



中地下平面図



1 階平面図

[仙台市縄文の森広場]



縄文ムラゾーンとガイダンス施設



展示室



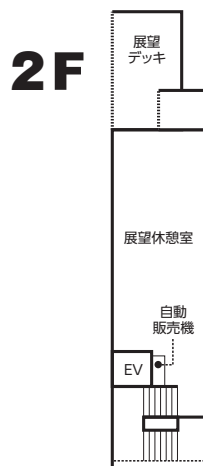
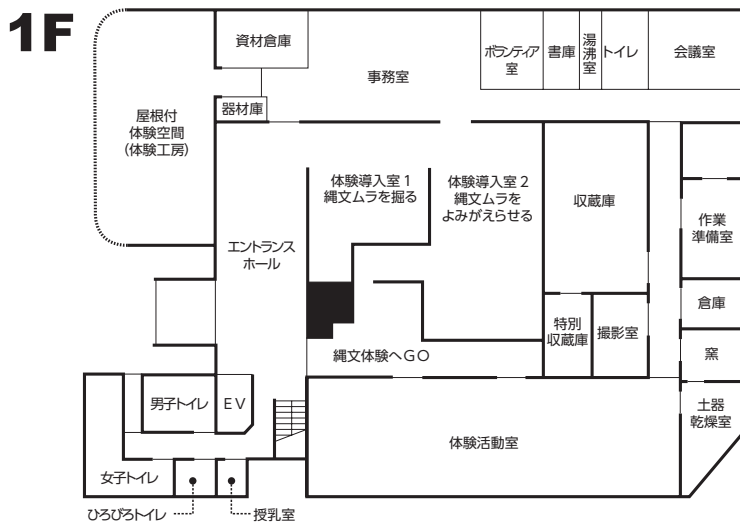
エントランスホール



体験活動室



展望休憩室



ガイダンス施設平面図

各室面積表

	(㎡)
体験導入室	207.93
体験活動室	160.58
屋根付体験空間	98.70
展望休憩室	69.90
収蔵庫	81.19
ボランティア室	17.10
事務室	68.08
会議室	25.42

4. 整備の目的と基本方針

地底の森ミュージアム

設置の趣旨・目的	仙台市では富沢遺跡第30次調査の貴重な成果から調査対象地区を保存するとともに、積極的に公開・活用していくこととし、樹木やたき火跡を大地から切り離さずそのままの姿で保存処理をして展示・公開する「富沢遺跡保存館」と、発見された樹木などをもとに旧石器時代の植生を復元する「氷河期の森」を一体的に整備した。 仙台市富沢遺跡保存館は、この保存された富沢遺跡の活用をととして、主に旧石器時代の歴史や文化の理解を深めることをねらいとしている。
基本的性格・基本方針	①富沢遺跡保存館は、世界的にも貴重な富沢遺跡の歴史的価値を人類共通の遺産として保存しながら、積極的に公開・活用し、市民が誇れる施設とする。 ②富沢遺跡保存館は、旧石器時代を中心としたテーマミュージアムである。ここでは発掘された2万年前の樹木やたき火跡を現地で保存処理して公開するとともに、発見された遺物などをととして当時の環境と人類の活動を生き生きとよみがえらせ、それを世界的な視野の中に位置付ける活動を行っていく。 ③富沢遺跡保存館の野外展示である「氷河期の森」では、富沢遺跡の調査から判明した氷河期の植生を復元し、自然の悠久なる偉大さが臨場感豊かに伝わるよう展示するとともに、市街地の中のオアシスとして市民に憩いの場を提供する。 ④富沢遺跡保存館は、来訪者に富沢遺跡がもつ歴史的な魅力をダイナミックに伝えるとともに、学校教育活動との緊密な連携を図りながら、生涯学習の視点から市民の発展的な創造力の涵養を積極的に支援する施設とする。
収蔵資料	当館の建設された経緯から、富沢遺跡から出土した仙台市教育委員会が所蔵する資料のうち、常設展示に関する資料及び旧石器時代に関する資料を借用し保管している。特に、富沢遺跡出土の球果や葉などの植物化石、シカのフンは大型冷蔵庫に収納するなど、資料の日常的な管理作業を必要とする。 【常設展示関係資料】 ①人工遺物 ○富沢遺跡第30次調査27層出土石器 111点(K63～K167c) ○富沢遺跡第30次調査27層出土チップ 137点 ○富沢遺跡第30次調査25層など出土チップ 81点 ○富沢遺跡第8次調査出土縄文土器 1点(A-1) ○富沢遺跡第30次調査出土石匙 1点(K-30) ○富沢遺跡第30次調査出土弥生土器 1点(B-5) ○富沢遺跡第30次調査出土石庖丁 1点(K-25) ○富沢遺跡第30次調査出土須恵器坏 1点(E-6) ②自然遺物 ○富沢遺跡第30次調査27層検出炭化物 1箱(テンバコ32) ③模型・剥製 ○人類頭骨模型 9点 ○シカ剥製(成獣、幼獣) 3体 ④富沢遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献

【保管資料】

①富沢遺跡出土遺物

- 富沢遺跡第30次調査25～27層出土植物化石 2,091点
- 富沢遺跡第30次調査25層出土フン 21ブロック
- 富沢遺跡第58次調査21～41層出土植物化石 398点
- 富沢遺跡第63次調査21～25b層出土植物化石 52点
- 富沢遺跡第66次調査33～35層出土植物化石 25点
- 富沢遺跡第68次調査24・26層出土植物化石 20点
- 富沢遺跡第88次調査9～13層出土植物化石 2,663点
- 富沢遺跡第88次調査9～11層出土フン 42ブロック
- 富沢遺跡第90次調査25～27層出土植物化石 1,525点
- 富沢遺跡第90次調査25層出土フン 20ブロック

②近隣遺跡出土遺物（仙台市指定有形文化財）

- 春日社古墳出土革盾 1点

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会 など

④購入図書

- 定期購読図書：月刊文化財発掘出土情報・月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・考古学雑誌・旧石器考古学 など
- 一般図書：旧石器時代・考古学・人類学・植物学などの関連図書 など

⑤イラスト及び版画 制作：細野修一

- 特別企画展関係 54点
- その他常設展示関係など 4点

⑥その他

- 二階堂亮氏寄贈：石斧1点や文献・写真など計24点（平成9年4月17日受）
- 高橋政治氏寄贈：日本国内及びニュージーランドの土器約50点、石器約330点など計約400点（平成14年8月19日受）
- 二階堂亮氏寄贈秋保電鉄旗立駅関連図面写し計4点（平成21年5月28日受）

仙台市縄文の森広場

設置の趣旨・目的	遺跡の整備は、地域社会あるいは都市空間のなかで、具体的な活用の姿を示し、社会的・文化的役割を担うことを目的とし、縄文ムラの復元によって、都市の歴史的背景の一端を共有できる空間と、体験活動を通して人と自然との関わりを知ることにより、創造的な市民の意識がはぐくまれる空間を創り出す。
基本的性格・基本方針	【整備の基本方針】 ①遺跡の保存整備：遺跡の保存状態を良好に維持し、後世に伝える。 ②縄文ムラの復元整備：縄文時代中期末葉を復元対象の時期として東地区に竪穴住居を数棟作り、継続的な発掘調査の成果を活かしながら、西地区を含めてその変遷を追うように建て替えを行ってムラの変化を示す。また、環境復元は現状の植生を考慮して行う。 ③市民の憩いの場としての整備：縄文人の生活した場所であることが体感できる市民の憩いの場としての整備を行う。 ④体験活動の場としての整備：ガイダンス施設や体験活動を行う場を整備する。 ⑤発掘調査の場としての整備：山田上ノ台遺跡の未調査地区を主な対象とした計画的な発掘調査を継続して行い、その成果を基に整備を行う。 【活動の基本方針】 ①体験活動：山田上ノ台遺跡の調査成果及び保存整備の意義を導入として、縄文人の生活と技術をテーマとする体験活動を展開する。体験活動は継続的な発掘調査と生活と技術の復元調査の成果をもとに充実していく。 ②発掘調査：体験活動を兼ねた発掘調査を行い、山田上ノ台遺跡の全体像を明らかにする。 ③情報の発信・受信・交流：体験活動の情報や縄文時代を中心とする発掘情報を広く市民に提供する。 ④講座・教室の開催：体験活動に関する内容を主とし、縄文時代の生活などを紹介する講座や新しい体験メニューを実践する教室を開催する。 ⑤学校・生涯学習施設との連携：学校との連携によって、小中学校などを対象とした体験学習を授業で積極的に行う。また、地底の森ミュージアムや市民センターなどの生涯学習施設と連携した活動を行う。 ⑥教職員対象講座の開催：小中学校の教職員を対象に、社会科、歴史、総合学習などの授業に関する支援と学習の場を提供する。 ⑦ボランティアの育成と支援：ボランティアの育成を行い、多様なボランティア活動を支援する。 ⑧地域住民との連携：山田地区の市民を対象に、山田上ノ台遺跡の重要性を理解し、活用してもらうためのさまざまな活動を行う。 ⑨資料収集・保管：調査・研究に関わる文献や資料の収集・整理と、遺跡出土遺物の保管を行う。
収蔵資料	当館は建設の経緯から、仙台市教育委員会が所蔵する山田上ノ台遺跡に関する常設展示資料、及びその他の出土資料を借用し、保管している。 【常設展示関係資料】 ①人工遺物 ○山田上ノ台遺跡出土縄文時代の資料 土器40点・石器141点・土製品7点 ○山田上ノ台遺跡出土旧石器時代の資料 石器11点 ②山田上ノ台遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献

【保管資料】

①山田上ノ台遺跡出土遺物

- 山田上ノ台遺跡第1次調査 旧石器時代の資料(テンバコ32)3箱・登録縄文土器344点・円盤型土製品1059点・土器破片99点・石鏃270点・石匙62点・石錐79点・篋状石器38点・その他石器9467点・石核(テンバコ32)2箱・凹石393点・礫石器(テンバコ32)6箱・磨製石器688点・焼礫(テンバコ32)6箱・石皿14点・扁平石(テンバコ32)5箱・打製石斧5点・磨製石斧40点・石製円盤11点・砥石12点・石刀3点・石剣1点・石棒1点・块状耳飾1点・登録土師器63点・土師器破片(テンバコ32)2箱・登録須恵器13点・須恵器破片(テンバコ32)2箱・陶磁器72点・釘68点・鏡1点・金属製品16点・木製品2点・墓石1基・石碑1基・人骨(テンバコ32)5箱・未整理(テンバコ32)1箱・土壌サンプル(テンバコ32)1箱
- 山田上ノ台遺跡第2次調査 旧石器時代の資料(テンバコ16)1箱
- 山田上ノ台遺跡第3次調査 石器(テンバコ32)2箱・接合資料26点・礫石器(テンバコ32)6箱・縄文土器(テンバコ32)1箱・炭化物(テンバコ32)1箱・土壌サンプル(テンバコ32)12箱

②縄文関連遺跡出土遺物

- 下ノ内浦遺跡 遺物40点・パネル2枚
- 伊古田遺跡 遺物47点・パネル1枚
- 上野遺跡 遺物13点
- 王ノ壇遺跡 遺物4点
- 下ノ内遺跡 遺物2点・パネル2枚
- 山口遺跡 遺物2点
- 六反田遺跡 遺物2点・パネル1枚
- 大野田遺跡 遺物20点 パネル2枚
- 北前遺跡・高柳遺跡・三神峯遺跡・鍛冶屋敷遺跡 各1点

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会 など

④購入図書

- 定期購読図書：月刊考古学ジャーナル・博物館研究 など
- 一般図書：縄文時代・考古学・博物館学 など

[地底の森ミュージアム]

1. 令和5年度事業報告

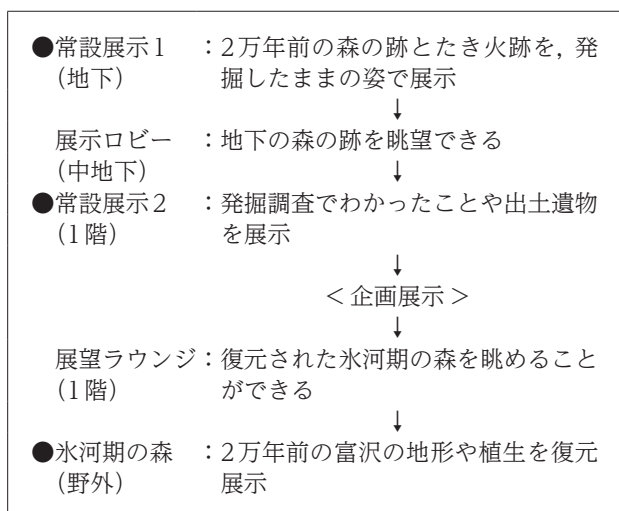
新型コロナウイルス感染症が5類移行となって活動制限が解除された5月8日以降は、館内及び仙台市と相談しながらコロナ前の事業内容や定員数の見直しなどを行いながら事業を進めた。

(1) 展示事業

①常設展示

i) 展示の構成

来館者は最初に地下の「常設展示1」で、発掘された2万年前の森の跡と人類の生活跡を見学する。次に発掘調査の成果を「常設展示2」を通して理解し、さらに企画展を開催している場合はこれを見学する。そして、最後に保存館より外に出て、復元された旧石器時代の森の中を散策しながら楽しめるように構成されている。なお、館内の展示サインは日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語表記としている。



ii) 展示の方法とねらい

現地保存型の遺跡博物館施設としての特徴を生かし、常設展示1で最初に2万年前の遺跡そのものを見ることから始まる展示構成は、来館者におおむね好評である。団体の見学も多く、展示説明を希望される場合は、職員及びボランティアスタッフが館内の説明を行いながら一緒にまわっている。ボランティアスタッフによる展示解説活動は、コロナ前の活動が戻りつつある。野外展示は、環境学習の場として活用が広がるとともに、鳥類や両生類、昆虫類が来訪および生息する地域の緑地として機能している。

○常設展示1(地下展示室)

・展示：900㎡の楕円形の大空間に広がる「本物」の遺跡と、壁面に広く映し出される湿地林の風景や復元映画の放映などによる演出により、富沢の環境と旧石器人の活動のようすを伝えている。

・保存公開：地下展示室では、温湿度の設定値の調整、地下水位については排水ポンプの調整によって、保存・公開に適した状態を維持することに努めた。室内は湿度70%以上を保つようにしているが、外気の湿度の影響を受けることもあったため、平成10年に地下展示室への出入口4ヶ所に扉(自動扉2ヶ所を含む)を設置する工事を行い、湿度の安定を図った。保存処理及び管理については(株)C&P研究所に委託し、仙台市教育委員会と当館の三者で打合せを行いながら進めた。その際、東北大学未来科学技術共同研究センターの猪股宏氏、東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科の佐々木淑美氏の指導・助言を得た。

○常設展示2(1階展示室)

・展示：展示の構成は、順に a. 氷河期へのいざない、b. 富沢での人類の活動をテーマとする展示、c. 富沢の自然環境をテーマとする展示、d. 復元画と立体映像による展示となっている。b・cでの「富沢博士」が謎解きをしながら調査でわかったことを説明していく展示方法や、全体をととして映像や模型、グラフィックパネルなど、視覚的な面を重視した展示は、大人から子どもまで楽しめる内容となっていて、小・中学生の学習活動に利用されるなど、好感をもたれている。特に立体映像とジオラマ模型を組み合わせた展示は子どもたちに人気が高い。

○野外展示

・植生：仙台周辺には自生していない植物が多いことから、仙台市教育委員会と当館が打合せを行いながら、植生の維持と管理に努めている。その際には東北大学名誉教授の鈴木三男氏、東北大学植物園の牧雅之氏・伊東拓朗氏らに助言・指導を求めながら進めている。また、植物生態調査・DNA分析については、国立大学法人東北大学学術資源研究公開センターへの委託研究として実施した。

②企画展示

○企画展

i) 第103回企画展「<仙台的遺跡めぐり 長町駅東遺跡> 長町に操車場があったころ」

○会期：4月21日(金)～7月17日(月・祝)

○開催日数：73日間

○入館者数：10,840人

○会場：企画展示室

○展示内容：近年、新しい街並みに変化し続ける長町には、大正から平成まで広大な貨物列車の操車場があった。本展では、長町駅東遺跡から出土した汽車土瓶などの鉄道関係資料を展示する他、東北福祉大学地域創生センター『鉄道交流ステーション』資料系の協力の元、操車場があった時代から現代までの長町駅周辺の移り変わりを紹介した。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター（4色）B2 500枚、チラシ（表面4色・裏面1色）A4 6,000枚

○広報：市政だより・ホームページ・各種広報誌などにより宣伝を行った。また、ポスター・チラシを関係機関・各所に配布した。

○協力機関：NPO 法人 科学映像館を支える会、風の時編集部、仙台市教育委員会、東北福祉大学地域創生センター『鉄道交流ステーション』資料系、栃木県立博物館、那須野が原博物館、みちのく鉄道応援団、宮城野鉄道研究会（五十音順）



第103回企画展チラシ



第103回企画展 展示のようす

○関連行事

・関連講座「駅弁容器と汽車土瓶の考古学」

日時：6月10日(土) 13:30～15:00

講師：河野真理子氏（日本考古学協会会員）

会場：研修室

参加者数：51人

・関連イベント「HOゲージ鉄道模型運転会～長町操車場を走った車両たち～」

日時：4月29日(土・祝)・4月30日(日)・5月27日(土)・5月28日(日)・6月24日(土)・6月25日(日)

10:00～15:00

協力：みちのく鉄道応援団、宮城野鉄道研究会

会場：研修室

参加者数：のべ765人

・ギャラリートーク（ポリ茶瓶の試飲付き）

日時：5月14日(日)・6月4日(日)・7月2日(日)

15:00～15:45

講師：当館職員

参加者数：のべ39人



第103回企画展 関連イベント「鉄道模型運転会」

ii) 第104回企画展「復元画から読み解く氷河期の森」

○会期：9月1日(金)～11月26日(日)

○開催日数：73日間

○入館者数：8,398人

○会場：企画展示室

○展示内容：富沢遺跡の復元画に描かれた世界とその背景を読み解きながら、球果などの出土資料とともに、野外展示「氷河期の森」の植物を様々な観点から紹介した。

○印刷物：葉型チラシ（両面4色）130*60mm 6,000枚

○広報：市政だより・ホームページ・各種広報誌などにより宣伝を行った。

○協力機関：仙台市教育委員会、仙台市博物館（五十音順）



第104回企画展チラシ



展示のようす

○関連行事

・ギャラリートーク

日時：10月28日(土)・11月25日(土) 11:00～

講師：当館職員

参加者数：のべ17人

iii) 特別企画展「旧石器×ハンター！」

○会期：1月16日(火)～3月10日(日)

○開催日数：46日間

○入館者数：4,108人

○会場：企画展示室・研修室

○展示内容：「旧石器時代の狩人」をテーマに、「つかまえる」「たべる」「かこうする」の3つのトピックについて石器を中心に展示を行い、旧石器時代の人々がどのように動物を捕まえ、食べ、活用していたのかについて焦点をあてた。また、展示室内にスタンプカードを設置し、展示資料に関連するクイズに答えてスタンプを押しながら見学する取り

組みも行った。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター(4色) B2 500枚, チラシ(表面4色) A4 6,000枚

○広報：市政だより・ホームページ・各種広報誌などにより宣伝を行った。また、ポスター・チラシを関係機関・各所に配布した。

○協力機関・個人：岩手県立博物館、鹿児島県立埋蔵文化財センター、神奈川県埋蔵文化財センター、加美町教育委員会、慶應義塾大学文学部民族考古学研究室 佐藤孝雄氏、国立民族学博物館、静岡県埋蔵文化財センター、東北大学大学院文学研究科考古学研究室、花巻市総合文化財センター、(公財)福島県文化振興財団 福島県文化財センター 白河館、北海道立北方民族博物館 中田篤氏、三島市教育委員会、山形県埋蔵文化財センター(五十音順)



特別企画展ポスター



特別企画展 展示のようす

○関連行事

1)「石蒸し料理をつくってみよう」

3月2日(土) 10:00～14:00

参加者：13人

2)「狩猟採集を実践する～カナダ・ユーコン準州と日本の事例から」

講師：山口未花子氏(北海道大学 准教授)

3月10日(日) 13:30～15:00 研修室・オンライン

参加者：44人(うちオンライン12人)



特別企画展関連行事「石蒸し料理をつくってみよう」

③連携展示

i) 第3回 Kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展

NPO 法人むきばんだ応援団が主催する「Kid's 考古学新聞コンクール」受賞作品と応募作品10点を展示した。縄文の森広場と合同で開催した。

○会期：11月14日(火)～26日(日)

○開催日数：11日間 ○会場：展望ラウンジ



Kid's 考古学新聞コンクール

(2) 普及啓発事業

①学校教育との連携

i) 利用状況

令和5年度の総入館者数における小・中学生の割合は20%であり、そのうちの76%が学校利用であった。近隣の小学校には、生活科や総合的な学習の時間、図画工作など異なる教科での学習活動や季節毎の自然観察など、複数回利用する学年もみられた。

ii) 利用学習

仙台市内の小・中学校と連携して授業を実践する事業である。各校における博物館活用を、当館と縄文の森広場の職員とボランティアが授業を行う形で実施してきた。6月1日(木)から12月まで13校826人が当館を利用した。学校の児童数に応じて、午前と午後のグループに分け、「展示見学(館内)」「石器使用体験」「狩人登場」の学習プログラムをローテーションする形で実施した。

iii) 職場体験活動

市内中学校からの職場体験活動の申し込みに基づき、9校31人の中学生を受け入れた。1回につき3日間3～4人程度を受け入れて実施した。体験内容は、館内掲示物の作成、図書整理、野外展示の巡回などである。

iv) 博物館学芸員課程実務実習

県内の大学に通う学生、もしくは県外の大学に在籍する宮城県内出身の学生を中心に希望者(定員10人)を受け入れている。9月5日から9月9日の期間に、八洲学園大学1人、神奈川大学1人、宮城学院女子大学3人、東北芸術工科大学3人、東北学院大学2人、尚絅学院大学1人、6大学、計11人が参加した。



学芸員課程実務実習

v) 教職員機関研修

学校教育との連携を推進するため、仙台市教育センターの機関研修として行っている。8月4日(金)に実施し、2人が参加した。

vi) 学生サポーター

博物館における接遇経験や社会人としての意識を養うことを目的として、仙台市近郊の大学生有志にサポーターとして登録してもらい、当館が実施するイベントなどを補助してもらう事業である。5大学8人(東北学院大学・東北大学・筑波大学・宮城学院女子大学・東北芸術工科大学)の登録があり、20回活動した。

②各種普及活動

i) 体験学習

旧石器時代のテーマミュージアムとして、旧石器時代の生活技術などについて、体験を学ぶ事業を積極的に実施した。

○たのしい地底の森教室

富沢遺跡や野外展示「氷河期の森」を活用したイベントなど、来館者が当館に親しみをもってもらえるような体験や講座を実施した。事業例としては「仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会」の協力による地底の森ミュージアムをテーマにしたオリジナル紙芝居の上演、仙台市立仙台工業高等学校模型・動画部による当館の松ぼっくりを使用したワークショップ、大人のための絵本よみやさん長澤香氏による当館オリジナル絵本「跡」の読み聞かせイベント、仙台の埋もれ木を用いたワークショップなどを計11回実施した。

日程：5～3月の土・日・祝 月1回程度

場所：地下展示室・研修室・企画展示室・展望ラウンジ・
野外展示「氷河期の森」他

参加者：のべ606人



たのしい地底の森教室「氷河期の森のミニミニリースづくり」

○地底の森フェスタ2023

屋外を会場として、自由参加の形式で開催した。当館ボランティア会とともに企画・実施した。

日時：10月8日(日) 10:00～15:00

内容：やり投げコーナー、編布体験コーナー、石器体験コーナー、森のガイドツアー、スタンプラリーを実施。実施時間帯はコーナーごとに異なる(協力：当館ボランティア会)。



おいでよ地底の森2023秋「ニコちゃんまつぼっくりカーを作ろう!」



地底の森フェスタ

○体験コーナー「石器をつかってみよう」

日時：日曜・祝日の13:30～15:00

対象：当日の入館者

内容：実際に紙を切って、石器の切れ味を体験してもらう。

○歴史的生活体験教室「親子でつくろう古代米」

事業団の自主事業。体験教室で利用してきた水田への水供給がなくなったため、体験教室参加者は募集せず、館スタッフによる栽培実験を行うこととした。天水を基本とした水田と畑での栽培を行い、これまでの水田栽培との収量比較などを行った。

○地域交流促進事業「2023 森の響き」

事業団の自主事業。地域の方々が気楽に参加しやすい形で、当館をより身近に感じられるよう、継続性を持った事業展開を意識し、地域の団体や組織との連携をさらに進めることを目標に実施した。「たき火と星編」と「コンサート編」の2つを実施した。

「たき火と星編」はながまち学びネットと共催し、観望会講師として天文ボランティアうちゅうせんを招き、事前申込制で実施した。また、音響空間作家の及川潤耶氏の協力を得て、音の演出効果も取り入れた。

「コンサート編」では、宮城県仙台三桜高等学校音楽部とOG演奏家が閉館後の地下展示室で演奏した。

【たき火と星編】

日時：11月23日(祝・木) 17:00～19:00

会場：芝生広場・研修室

参加者数：41人



2023 森の響き「たき火と星編」

【コンサート編】

日時：1月27日(土) 17:30～18:10

会場：地下展示室

参加者数：65人



2023 森の響き「コンサート編」

○歴史・芸術融合事業「ミュージアム・シアター“狩人登場！！”」

事業団の自主事業。演劇の手法を通じて当館の展示をより理解してもらう「ミュージアム・シアター」として、「劇団短距離男道ミサイル」の劇団員が、旧石器時代の狩人に扮して館内外に登場した。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、来館者との接触や交流を少しずつ増やしていくことにした。

指定管理事業「利用学習」にも登場することで、一般来館者だけでなく小学生にもアプローチを行い、より積極的に体感してもらえるように取り計らった。また、地下展示室にて演劇要素を強めた「富沢博士版」を複数回実施し好評であった。

開催期間：6～7月(前期), 8～12月(後期)

回数：20回



狩人登場「富沢博士版」



狩人登場「野外出現版」

○映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」

事業団の自主事業。令和5年度は、昨年度制作した360度・VR動画のPR動画を制作しYouTubeで公開する他、広報用印刷物を制作して市内・県内の学校等へ発送した。また、館内で視聴体験会を行うなど、公開動画の広報活動を中心に活動を行った。

・360度・VR動画「地底の森ミュージアムに旧石器時

代の狩人登場!!!」視聴体験

日時：8月26日(土) 13:00～15:30

2月10日(土) 10:30～12:00 / 13:30～15:00

参加者数：のべ87人



地底の森アーカイブス 360度・VR動画 PR ハガキ

ii) 各種講座

○考古学講座

生涯学習事業の一環として、「旧石器時代の狩人」をテーマに、一般を対象に最新の研究成果を取り上げる講座を2回実施した。会場とオンライン配信を併用して行い、オンライン配信には県外の方からも多く申し込みいただいた。

今年度は、特別企画展の関連講座と一体化して実施した。

第1回「石器から読み解く3万5千年前の狩猟具と狩猟方法」

日時：1月21日(日) 13:30～15:00

講師：山岡拓也氏(静岡大学 教授)

会場：研修室

参加者数：33人(会場23人, オンライン10人)



第1回考古学講座

第2回「遺跡に残る『狩猟』の痕跡—陥し穴」

日時：2月17日(土) 13:30～15:00

講師：佐藤宏之氏(東京大学 特任研究員)

会場：研修室

参加者数：42人(会場30人, オンライン12人)



第2回考古学講座

○富沢ゼミ

富沢遺跡や、その周辺地域の歴史・文化財を紹介する。令和4年度に引き続き、宮城県内の考古資料を取り扱うミュージアムをテーマにした講座も開催した。

第1回「交通からみた長町の歴史」

講師：菅野正道氏(郷土史家/元仙台市史編さん室長)

日時：7月9日(日) 13:30～15:00

会場：研修室

参加者数：77人(会場41人, オンライン36人)



第1回富沢ゼミ

第2回「みやぎの考古なミュージアム②石巻市博物館～毛利コレクションと石巻考古館～」

講師：泉田邦彦氏(石巻市博物館 学芸員)

日時：12月9日(土) 10:30～12:00

会場：研修室

参加者：37人(会場24人, オンライン13人)



第2回富沢ゼミ

iii) 市民文化財研究員

公募による2人を対象に、学芸員による講義や各種体験、遺跡見学会など、遺跡や考古学に関する学習支援を実施した。1年間の活動成果として、自身で設定したテーマをもとにレポートを作成した。作成したレポートは当館ホームページにて公開している。



市民文化財研究員

iv) ボランティア活動

ボランティア登録者は、昨年度からの継続者60人に、新規5人を加えて65人であった。新型コロナウイルス感染症の影響で活動内容を制限した期間もあったが、来館者への展示解説や各種体験活動における補助等が行われた。新規登録者向けの養成講座を5回実施した。スキルアップを



活動のようす「石器づくりの実演」

目的とした、仙台市縄文の森広場との合同による視察研修2回、実技研修1回、育成講座2回を行った。

・視察研修

日時：①10月18日(水) 8:00～17:30

②11月12日(日) 8:00～17:30

視察先：①大船渡市立博物館・陸前高田市立博物館

②大船渡市立博物館・陸前高田市立博物館

参加者数：①のべ27人、②22人(縄文の森を含む)



視察研修

・実技研修「埋れ木磨きワークショップと埋れ木細工のこと」

講師：鈴木綾乃氏(埋れ木細工職人)

日時：9月23日(土) 13:30～14:30

参加者数：26人

・養成講座①「仙台の過去800万年前の大地と埋れ木」

日時：9月23日(土) 10:00～11:30

講師：高嶋礼詩氏(東北大学総合学術博物館 館長)

会場：研修室

参加者数：29人(会場24人、オンライン5人)

・養成講座②「伝わる声と話し方講座」

日時：2月22日(木) 10:30～12:00

講師：森雅一郎氏(元東北放送アナウンサー、元TBCアナウンス学院長)

会場：研修室、地下展示室

参加者数：21人

v) 運営懇談会

当館に隣接する町内会・小中学校・市民センターなどの方々に参加を依頼し、館事業を紹介し、運営のあり方について意見交換を行う場である。令和5年度は、地元町内会長からの聞き取り調査を実施した。

日時 3月13日(水) 14:20～15:30

場所 地底の森ミュージアム事務室

協力 泉崎1丁目南町内会 会長

vi) 出前対応

学校・市民センターなどからの依頼を受け、出前対応を行い、地域貢献を図るとともに館の広報にも努めた。

- ・大野田小学校5年生
6月27日(火) 10:45～12:20
7月5日(水) 10:45～12:20
- ・郷土を愛する歴史の会
6月8日(木)
- ・ベガルタ仙台(ユアテックスタジアム)
7月23日(日)
- ・長町南小学校3年生
9月6日(水)・15日(金) 9:20～11:40
- ・仙台市文化財展(メディアテーク)
11月12日(日)
- ・泉崎1丁目南町内会
11月19日(日)
- ・月イチガク(三瓶縄文の森ミュージアム)
11月25日(土)(オンライン)
- ・みんなで巡る旧石器時代全国遺跡ツアー(日本考古学協会)
12月9日(土)
- ・尚絅学院大学出前講座
12月7日(木)・19日(火)
- ・長町南小学校教員研修
2月9日(金)

vii) 学校・地域との協働事業

学校・市民センターと協働し、生涯学習活動や地域貢献のために以下の取り組みを行った。

- ・大野田小学校5年生学習成果発表資料展示
8月9日(水)～8月15日(火)
- ・富沢市民センター ふれあいまつり2023「木の名札作り」
10月1日(日)
- ・長町南小学校3年生図工作品展示「森の美術館」
1月19日(金)～1月28日(日)



大野田小5年生学習成果発表資料展示

ix) 国際交流

5月3日～7日にかけて大韓民国京畿道漣川郡全谷里で開催された第30回漣川旧石器祭(文化遺産教育と遺跡保存のための国際ワークショップ・世界旧石器体験広場)に縄文の森広場の職員とともに参加し、石器づくりの実演パフォーマンスと、革ひもを撚ってストラップを作る「よりより縄文」を実施した。期間中、1000名を超える参加者がブースを訪れた。また、更なる友好関係を確立するために、3月13日に当館と韓国・全谷先史博物館の間で、国際文化交流協約を締結した。



第30回漣川旧石器祭



国際文化交友協約締結

(3) 調査研究事業

○遺跡に関する各種分析調査と遺跡保存

保存公開している遺跡の現状を把握し、問題への対処などを検討するために保存処理検討会を毎年開催している。本年度は11月10日(金)に行い、遺跡保存状態の確認と新開発薬剤「ER-009」「C-10」の使用、保存処理作業の記録化と情報公開などについて検討を行った。

遺跡に関する分析調査として、小型絶対圧式水位計を用いた地下水位測定と既設の水位計や土壌水分・温度・ECセンサー記録のデータ分析等を実施した。あわせて学校法人東北芸術工科大学と、土壌表面の析出物及び展示室内環境の測定についての共同研究を行った。



保存処理研究会

○研究報告の刊行

富沢遺跡保存館の調査研究活動の成果を発表し、これからの博物館運営に役立てることを目的として、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2023』を刊行した。「仙台市縄文の森広場野外展示の復元住居木材の強度測定と修繕について」(佐藤祐輔・大塚亜希子)、「第103回企画展「<仙台の遺跡めぐり 長町駅東遺跡>長町に操車場があったころ」開催報告」(帖地真穂・鈴木佳子)を掲載した。また、本書は館内で頒布する他、独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所のウェブサイト『全国遺跡報告総覧』を通じてPDFを公開している。

○富沢遺跡保存館研究会

「埋没林と野外展示『氷河期の森』 その価値と魅力」

日時：11月19日(日) 13:30～16:30

講師：山野井徹氏(山形大学 名誉教授)・鈴木三男氏(東北大学 名誉教授)

会場：研修室・野外展示

参加者数：36人

2. 施設管理

(1) 保守点検

月1回の保守点検日(1～11月は第4木曜日、12月は第3月曜日)を設け、委託業務仕様書に基づき建物・設備の定期点検を実施した。

(2) 施設・設備などの修繕

開館から27年を経過した施設・設備は経年劣化による不具合が多発しており、緊急性を優先し修繕を行った。

- ①施設の雨漏れ対策：1階事務室男子ロッカー入口・1階ELV横の壁より漏水、原因は屋上防水・躯体の目地シーリングの経年劣化によるもので、シーリングにて応急処置対応を行った。
- ②地下スロープ：壁面展示ケース(3ヶ所)頻繁に球切れするためLEDに交換修繕。
- ③消防用設備：定期点検で指摘のあった不良器具(防火シャッター2ヶ所他)の交換修繕。
- ④空調設備：機器・設備などの交換修繕を随時実施したが、地下展示室の温湿度管理システムに不調があり、不安定な状態は改善されていない。
- ⑤トイレ設備：不具合が発生した器具類の交換及び修繕。
- ⑥地下展示室：湧水排水ポンプ(DP6-2)故障のため交換修繕。
- ⑦地下展示室：井水排水ポンプ3台(WP-1・2・3)が故障した。WP-1・2は交換修繕済み。WP-2・3のインバーター制御装置が故障している。
- ⑧エレベータ機械室前：排水ポンプ2台配管更新修繕。
- ⑨機械室・電気室：機械室の排風機、電気室の送排風機が故障して、両室共温度管理が出来ていない、電気・設備機器への悪影響が懸念されるため早急の交換修繕が必要。

3. 利用状況

令和5年度の開館日数は293日、入館者数は35,392人であった。前年度入館者数31,419人に比べ3,973人増、前年度比は113%である。

月別の入館者数を見ると、4月が前年度比110%となったほか、2月・3月は140%以上、10月(97%)を除くと100%以上で、大変多くの来館者を迎えることができた。

内訳を見ると、全体に占める有料入館者の割合は56%

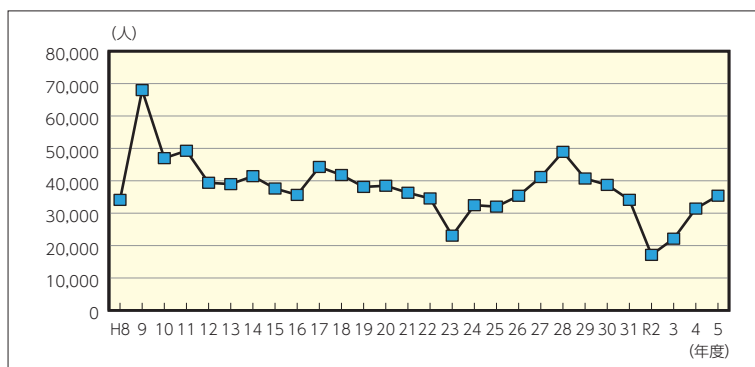
で、その90%近くが一般、次いで小・中学生となっている。なお、平成8年11月2日の開館から令和6年3月31日までの総入場者数は1,057,527人となった。

地域に根差し、活性化に資することを引き続き重視し、生涯学習活動に取り組んだ。「おいでよ地底の森 春・秋2023」開催時の仙台市立仙台工業高等学校模型・動画部との協働、長町南小学校・大野田小学校など近隣小学校への出前授業などである。加えて富沢市民センターまつり参加などを行った。

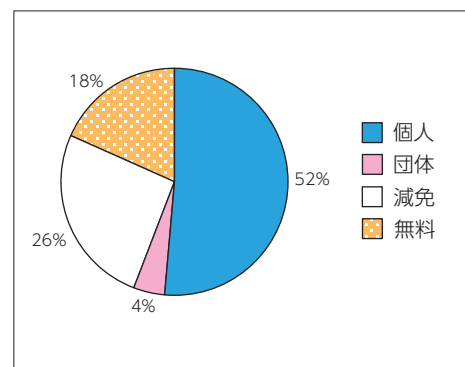
月別入館者数 (令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

月	有 料							無 料					合計
	個 人			団 体			小計	減 免			無 料 入館者	小計	
	一般	高校生	小・中学生	一般	高校生	小・中学生		一般	高校生	小・中学生			
4	959	13	153	43	1	117	1,286	234	0	151	379	764	2,050
5	1,614	25	294	125	1	39	2,098	399	0	488	516	1,403	3,501
6	1,388	12	251	123	0	117	1,891	388	30	1,020	556	1,994	3,885
7	1,645	30	111	50	0	82	1,918	599	0	436	718	1,753	3,671
8	2,175	55	271	83	0	41	2,625	342	0	709	510	1,561	4,186
9	1,242	10	191	56	0	177	1,676	240	0	229	569	1,038	2,714
10	1,263	9	102	48	0	20	1,442	335	12	473	718	1,538	2,980
11	1,184	10	18	153	2	0	1,367	345	0	688	580	1,613	2,980
12	637	2	23	29	0	0	691	184	14	180	375	753	1,444
1	942	17	56	39	1	2	1,057	272	0	224	519	1,015	2,072
2	1,450	24	82	59	0	5	1,620	274	0	290	526	1,090	2,710
3	1,771	62	153	99	4	15	2,104	320	0	305	470	1,095	3,199
計	16,270	269	1,705	907	9	615	19,775	3,932	56	5,193	6,436	15,617	35,392

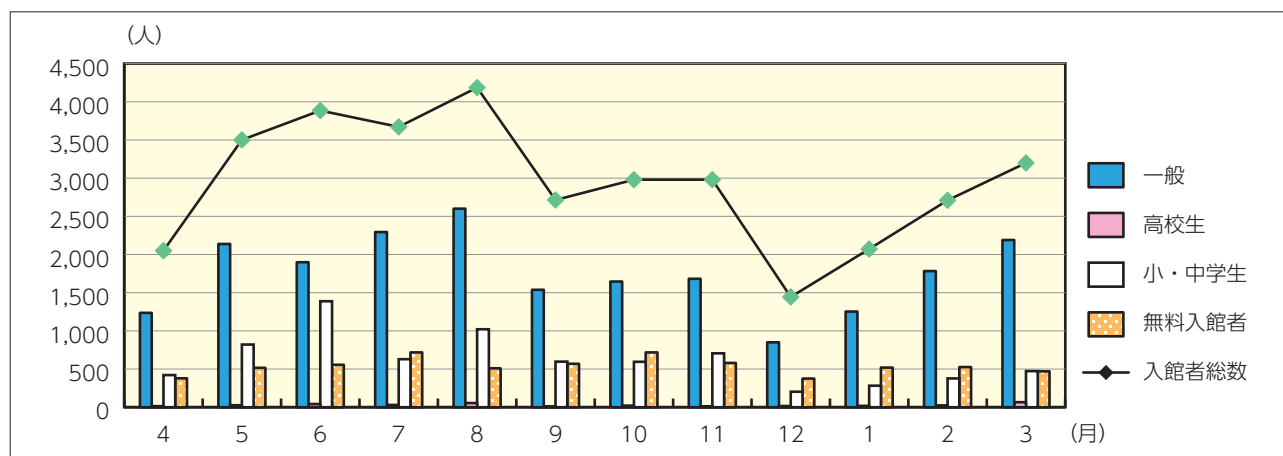
開館年度からの入館者数の推移



入館者内訳



月別入館者数



4. 入館者アンケート

入館者の貴重な意見を活かした館運営を目指して、アンケートを1月16日に再開した。記入された内容・要望・意見については館内で検討を行い、そのフィードバックを『お客様の声へのお答え』として展望ラウンジに設置した掲示板にてお知らせしている。同時に要望や改善については、できるだけ迅速に対応するよう努めている。アンケート用紙は常時所定の場所に設置し毎日回収している。

5. 令和6年度事業計画

(1) 展示事業

①常設展示

- i) 常設展示1 (地下展示室)
富沢遺跡の発掘調査面の展示
- ii) 常設展示2 (1階展示室)
出土資料をもとに調査成果を分かり易く解説した展示
- iii) 野外展示「氷河期の森」
2万年前の植生を復元した展示

②企画展示

◎特別企画展

「氷期の考古学(仮)」
会期：1月10日(金)～3月2日(日)
内容：氷期の日本列島の環境を紹介しながら、その時代を暮らした人々を紹介する。

◎企画展

- i) 第106回企画展「＜仙台の文化財めぐり：霊屋下セコイヤ類化石林＞うもれぎ、多様性。」
会期：4月26日(金)～7月21日(日)
内容：仙台市指定天然記念物「霊屋下セコイヤ類化石林」の【珪化木】や【埋もれ木】、富沢遺跡の旧石器時代の【埋没林】など、大地の中には長い年月をかけて姿を変えてきた木々が眠っています。本展では、広瀬川周辺で採集された珪化木や埋もれ木、仙台市内の遺跡から出土した珪化木の石器の他、仙台の伝統工芸品・埋もれ木細工など、大地の中に埋もれていた木々の様々な姿をご紹介します。

○関連行事

- ・関連講座「悠久の木のかけら―炭化と珪化の鑑賞会―」
日時：6月22日(土) 13:30～15:30
講師：伊達伸明氏(美術家、亜炭香古学／企画・監修)
会場：研修室
- ・ギャラリートーク(埋もれ木磨き体験付き！)
日時：4月29日(月・祝)、5月18日(土)、6月16日(日)
10:30～11:30
講師：当館職員 会場：企画展示室・研修室
- ・関連イベント「埋もれ木磨き体験」
日時：4月29日(月・祝)、5月18日(土)、6月16日(日)
13:30～15:00
講師：当館職員 会場：企画展示室・研修室
- ・関連イベント「埋もれ木細工職人・鈴木綾乃さんと一緒に埋もれ木を磨いてみよう！」
日時：7月20日(土) 13:30～14:30
講師：鈴木綾乃氏(埋もれ木細工職人)
会場：研修室

ii) 第107回企画展「土のなかのメッセージ」

会期：9月6日(金)～11月17日(日)

内容：開発行為に伴い実施されることの多い発掘調査は、写真や図面などでの記録保存を前提として行われている。記録保存の一手法「造形保存」も発掘調査で行われているが、その成果が公開される機会は限定的である。本展示では、造形保存法の一つ「接状剥離資料(主に地層剥ぎ取り)」を通して、遺跡保存の方法とその意義を紹介する。

○関連行事

・ギャラリートーク

日時：9月8日(日)・10月27日(日)・11月2日(土)

11:00～

講師：館職員

会場：企画展示室

(2) 普及啓発事業

①学校教育との連携

i) 利用学習(縄文の森広場と合同で実施)

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主対象とし、通年で当館の常設展示の見学・体験学習と縄文の森広場の各種縄文体験による学習を行う。

ii) 職場体験活動

市内中学校からの要請に応じて、通年で職場体験活動を受け入れる。

iii) 博物館実務実習

学芸員資格取得を目指す大学生(定員9人)を受け入れ、実習を行う。

期日：9月18日(水)～9月22日(日・祝日)

iv) 教職員利用研修

市内小・中学校の教職員を対象として、当館の展示と学習活動を紹介し、学校教育との連携のあり方を検討する。

日時：8月2日(金) 14:00～16:30

内容：施設の概要・見学・石器使用体験等

②考古学講座

先史時代に関する考古学・環境などのテーマを設定し、専門家による講座を2回実施する(縄文の森広場との連携事業)。

・第1回講座「春日社古墳出土革盾の意義と保存」

期日：10月26日(土)

講師：荒井 格氏(元仙台市教育委員会文化財課職員)

会場：研修室

・第2回講座「未定」

期日：未定

講師：未定

会場：研修室

③富沢ゼミ

富沢遺跡や、その周辺地域の歴史・文化財を紹介する。また、令和4年度に引き続き、宮城県内の考古資料を取り扱うミュージアムのスタッフによる講座を開催する。

・第1回「奥羽山脈・太白山・秋保温泉はどのようにしてできたのか?—太白区の地質と地形の成り立ち—」

日時：7月6日(土) 14:00～15:30

講師：高嶋礼詩氏(東北大学総合学術博物館 館長)

会場：研修室

・第2回「みやぎの考古なミュージアム③山元町歴史民俗資料館—震災復興で発見・移設された飛鳥時代の壁画—」

日時：9月29日(日) 14:00～15:30

講師：山田隆博氏(山元町教育委員会 生涯学習課)

会場：研修室

④たのしい地底の森教室

館職員が、当館に関わる様々なテーマに関して行う体験型イベント。各種体験教室や野外展示を活用した観察会なども組み込み、子どもが楽しめる内容を中心に実施。

期日：土・日・祝を中心に月1回程度

13:30～14:30(内容により事前申込制)

⑤地底の森フェスタ2024

市民を対象として、館内及び野外の芝生広場を会場に「やり投げ」・「編布コーナー」・「石器コーナー」などの体験活動を行う。今年から試食コーナーを復活させる。

日時：10月13日(日) 10:00～15:00

⑥体験コーナー「石器をつかってみよう」

館スタッフが製作した石器を使用して、型紙を切る体験を実施する。

日時：日曜日・祝日

13:30～15:00(館事業により休止する場合もある)

⑦市民文化財研究員の育成

公募した市民(定員5人)が、1年間にわたり隔週1回当館にて考古学や遺跡に関する学習活動を行う。館職員は、

講義や遺跡見学会などの支援を行う。研究員は、それぞれのテーマに基づき自主学習を行い、その成果を活動報告にまとめる（10月・12月は自主活動期間）。

⑧ボランティア育成

市民文化財研究員を修了した希望者及び市民から募集し、展示解説や館行事の準備や補助などを行っていただくボランティアスタッフを養成する。また、登録している現ボランティアのスキルアップ研修も実施する（縄文の森広場との連携事業）。

i) 新規ボランティア養成講座

オリエンテーション：5月26日（日）

第1回：6月23日（日）

第2回：7月28日（日）

第3回：8月18日（日）

第4回：9月1日（日）

ii) ボランティア育成講座

講師：未定

日時：未定

iii) ボランティア遺跡見学会（縄文の森広場との合同見学会）

日程：10月16日（水）、11月17日（日）

場所：浦尻貝塚・貝塚観察館、南相馬市博物館

iv) ボランティア実技研修

講師：未定

日時：未定

⑨地域や大学との連携

地域の行事には積極的に参加・協働し、周辺の学校や社会教育施設ならびに地域住民とともに地域文化の中核となる博物館をめざす。また市内大学と連携し、学生サポーターとの協働も進めていく。

i) 地域・近隣学校などとの運営懇談会開催

ii) 地域・近隣学校などへの出前対応

iii) 体験学習事業での学生ボランティアとの協働

⑩インターネットおよび SNS による情報発信

企画展の開催や体験活動などの情報を広く一般の方々に提供するため、ホームページを開設し、常時更新しながら情報発信を行う。また Facebook や YouTube での情報発信も行う。

⑪事業団の自主事業

i) 歴史・芸術融合事業「ミュージアム・シアター“狩人登場!!”」

市内を中心に演劇などの表現で活動している劇団「MICHInoX」の劇団員が旧石器時代の狩人に扮し、館内外にて狩人出現とパフォーマンスを行う（20回程度）。また、9月には、手話通訳ガイド付きの狩人の様子を紹介する。（1回）
開催期間：7月～2月

ii) 地域交流促進事業「2024 森の響き」

地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすい形で野外展示「氷河期の森」の価値を高めることを目的として実施する。

たき火と星編 日時：11月23日（土） 17:00～19:00

コンサート編 日時：2月1日（土） 17:30～18:10

iii) 映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」

360度・VR 動画「地底の森ミュージアムに旧石器時代の狩人登場!!!」の＜石器編＞を制作する。完成した動画は、YouTube で公開する他、館内で視聴体験のイベントを行う。

iv) 地底の森ミュージアムグッズ製作

来館の思い出・記憶に残るグッズを当館ボランティア会とともに開発する。

(3) 調査研究事業

①調査研究報告書の刊行

館職員・ボランティアスタッフなどによる考古学に関する調査研究活動及び研修活動の成果などを縄文の森広場と合同で「調査研究報告書」として刊行する。

②遺構の各種分析調査

地下の遺構面の維持・管理のため、専門家の指導・助言を頂きながら、適正な保存・管理を行うために遺跡保存処理検討会を2回実施する。

保存処理検討会 第1回：7月 第2回：12月予定

③野外展示「氷河期の森」植生検討会・植生景観調査

野外展示「氷河期の森」の植栽の維持管理のため、植生検討会と植生調査を実施し、氷河期の森の維持について専門家の指導を受け、補植などを実施する。また、植生検討会は縄文の森広場と連携して実施し、植物の構成樹種の相違を活かした2つの異なる森づくりとその利活用を行う。また、専門家や有識者を招いた研究会を行い、より良い野外展示の整備と活用のあり方を考え、常設展示リニューアルに向けた取り組みを進める。

第1回 植生検討会：7月

第2回 植生検討会：11月予定

植生調査・景観調査・DNA分析 6～3月

④常設展示の見直しに関する調査研究

開館から28年を超え、常設展の内容が最新の研究成果にそぐわない、反映していないところが増えてきた。来館者に正しい情報をより分かりやすく伝える展示内容や方法を検討する必要があるため、先進事例の調査や有識者を招き指導・助言をいただく場を設ける。

(4) 資料の収集・保管

①常設展示関係

仙台市教育委員会で所蔵する常設展示に関する資料を借用し保管する。

②保管資料

仙台市教育委員会が所蔵する旧石器時代・古墳時代に関する資料及び関係機関からの寄贈図書、購入図書、企画展実施のために製作した資料、寄贈資料などを収蔵する。

(5) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。あわせて「仙台市市民文化事業団事業運営に関する基本方針」（令和4年3月改訂）に沿って業務を進める。

(6) 刊行物

①ミュージアム通信 年3回

②企画展刊行物（展示図録、ポスター、チラシ）

③年報（縄文の森広場と合本）

④調査研究報告書（縄文の森広場と合本）

⑤リーフレット、パンフレット

6. 利用案内

●所在地

〒982-0012 宮城県仙台市太白区長町南四丁目3-1

●電話およびFAX

TEL 022(246)9153 FAX 022(246)9158

●Eメール

t-forest@coral.ocn.ne.jp

●ホームページ

<https://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~chiteinomori/>

●開館時間

午前9時～午後4時45分(入館は午後4時15分まで)

●入館料・共通券

区 分	個人	団体	共通入場券
一 般	460円	360円	490円
高校生	230円	180円	280円
小・中学生	110円	90円	150円

- ・団体は30人以上、引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「仙台市縄文の森広場」共通入場券

●休館日

月曜日(休日は開館)

休日の翌日(休日、土・日曜日にあたる日は開館)

1月～11月の第4木曜日(休日は開館)

年末年始(12月28日～1月4日)

くん蒸のため臨時休館(12月23日～12月27日)

●交通案内

- ・仙台市営地下鉄南北線長町南駅より西へ徒歩約5分
- ・JR東北本線長町駅より西へ徒歩約20分・東北自動車道 仙台南インターより東へ約7km



〔仙台市縄文の森広場〕

1. 令和5年度事業報告

令和5(2023)年度は、これまでのコロナ禍のため規模を縮小していた事業を少しずつ元に戻すように、事業の見直しなどを行い、計画・実施した。

(1) 展示事業

①常設展示

○エントランスホール

当館の概要及び特長を紹介する映像が流れ、当館が完成するまでの軌跡を円形の壁面パネルにて展示している。壁面にある展示ケースでは、体験作品の見本やミニ企画展の拡張展示など、定期的に展示内容を変更している。

当館ボランティア製作の複式炉模型の展示やオリジナルグッズの販売も行っている。

○ガイダンス展示室

<体験導入室1>「展示1 縄文ムラを発掘する」

山田上ノ台遺跡の発掘調査成果について、各種パネルや出土資料の展示などをおして紹介している。床面には竪穴住居の出土状況写真も展示している。また発掘の原理、調査の実際などを模型やVTRを使って紹介している。



エントランスホール

<体験導入室2>「展示2 縄文ムラがよみがえる」

山田上ノ台の縄文ムラの情景を模型で再現している。

・縄文学ラウンジ

縄文時代に関連した調べ学習ができるように、関連図書を整備している。くわえて縄文時代に食べられていたと考えられる木の実や雑穀などの実物も展示、紹介している。

・縄文土器 年表&パズル

約12,000年間続いた縄文時代の、時期ごとの土器型式の違いを、仙台市内の遺跡とともに紹介するパネルを展示している。

・縄文時代の環境復元

縄文時代の植物環境についての説明パネルと、花粉が顕微鏡で実際どのように観察できるのか、モニター展示している。

・土器、石器がおしえてくれること

土器に残された痕跡から分かること、石器の用途などを紹介している。

<体験導入室2>「展示3 縄文ムラのくらしが見える」

・縄文人のすまいとくらし

竪穴住居の内部の様子を模型で紹介して、土器や石器などの出土品からわかった縄文人の生活を紹介している。



竪穴住居内部の模型

②企画展示

今年度は、東北の代表的な縄文遺跡について4回行った。

i) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—仙台の遺跡と米沢の遺跡—」

・会期：令和5年3月19日(日)～6月11日(日)

・入場者数：3,590人

・展示内容：仙台市に所在する縄文時代中期の高柳遺跡と、米沢市に所在する同じく中期の台ノ上遺跡の遺物を3Dデータとともに展示し、縄文時代の発達したネットワークの紹介を目的とした。

・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネル・3D動画など。

ii) 夏のコーナー展示

「東北の縄文遺跡―山形県村山市羽黒神社西遺跡―」

- ・会期：8月1日(火)～10月15日(日)
- ・入場者数：5,302人
- ・展示内容：山形県村山市に所在する縄文時代中期の羽黒神社西遺跡から出土した有孔罎付土器など装飾が見事な土器を、3D データとともに展示した。
- ・展示構成：遺跡地図及び遺跡・遺物紹介文字パネル・写真パネル・3D 動画など。



企画展示

iii) 冬のコーナー展示

「東北の縄文遺跡―大崎市北小松遺跡―」

- ・会期：12月1日(金)～令和6年2月12日(月・祝)
- ・入場者数：2,569人
- ・展示内容：宮城県大崎市に所在する縄文時代後期～晩期の北小松遺跡から出土した、脚のある縄文土器や土偶、土面、サメの歯を用いた装飾品等を3D データとともに展示した。
- ・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネル・3D 動画など。

iv) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡―仙台市上野遺跡―」

- ・会期：令和6年3月19日(火)～6月9日(日)
- ・入場者数：681人(令和6年3月31日まで)
- ・展示内容：仙台市に所在する縄文時代中期の上野遺跡から出土した縄文土器や石器、土笛と考えられる土製品などを3D データとともに展示した。
- ・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネル・3D 動画など。

③野外展示

i) 縄文ムラと広場

野外には、竪穴住居を復元し、その他の遺構を表示している縄文ムラゾーンと、植物栽培などを行う広場ゾーンがある。それらの周りにはクリやコナラなどの森を復元し、縄文時代の環境を含めて、集落を再現している。



縄文ムラの環境と復元

・縄文ムラ(野外展示の東半部)

発掘調査では38棟の竪穴住居跡をはじめ、貯蔵穴、落とし穴などが多数見つかり、各遺構は主に見晴らしの良い台地の縁辺に沿って造られている。野外の東側には同時期に建っていたことがわかった竪穴住居3棟を復元し、また周囲には貯蔵穴や落とし穴、ゴミ捨て場などの遺構を表示し、縄文時代のムラの様子を再現している。

・復元住居について

柱木材の状態確認および維持管理について助言を受ける場として、有識者を招聘し、12月3日および9日に現場の確認、指導を受けた。招聘した有識者は以下のとおりである。

浅川滋男氏(県立鳥取環境大学)	12月3日
大塚亜希子氏(秋田県立大学)	12月3日
岡本一秀氏(兵庫県立考古博物館)	12月3日
小黒智久氏(富山市民俗民芸村)	12月9日

また、大塚亜希子氏に依頼し、同日に木材の強度測定を行い、見えない部分の劣化状況の確認を行った。その状況を踏まえ、2月2日に最も劣化が進んでいる9号住居の柱2本の修繕を行った。



14号復元住居(左)と9号復元住居



植物栽培棚

・広場(野外展示の西半部)

当時の広場と推定される場所を含めて西側一帯は、野外での縄文体験やイベント、縄文人が育てていた作物の栽培、体験活動を兼ねた発掘調査などを行う場として利用している。

ii) 植生

野外にはムラや広場とともに、縄文時代の森の様子を推定復元している。当時の植生についてはこれまでの研究で、縄文ムラの近くには現在の雑木林に近い落葉広葉樹林の豊かな森が広がっていたことがわかっている。これらを参考にして、高木はクリ、クルミ、トチ、コナラなど、低木はタラノキ、ガマズミ、ミズキ、ニワトコなど、草本ではササ、チガヤ、キキョウなどを植栽している。縄文の森広場植栽管理計画(2022～2026)をホームページで公開している。また、「植生検討会」での指導・助言を受けて、森の維持管理・充実を図っている。令和5年度は植生検討会を2回実施した。



植生の復元

iii) 縄文畑

野外広場の北西部には、縄文時代に栽培されていた可能性がある作物や有用植物の見本畑がある。現在はヒエ・アワ・キビの雑穀やエゴマ・ツルマメ・ヤブツルアズキの他に、アケビ、ヤマブドウ、カラムシ・マタタビを育てている。

(2) 普及啓発事業

①夏休み子ども考古学教室

小学生と保護者がさまざまな体験活動を実施しながら縄文時代に関する理解を深め、生活の様子や知識を学ぶ機会とすることを目的に実施した。火おこし体験・鹿の角を使ったアクセサリーづくりなど親子で楽しめるメニューの体験活動を行った。

・日時：7月29日(土) 10:00～12:00

8月19日(土) 10:00～12:00

・参加者数：27人



夏休み子ども考古学教室

②長期休暇特別イベント

より多くの市民に当館に興味関心を持っていただくことを目的とし、市内小中学校の長期休暇期間にあわせて、普段とは異なる体験活動メニューを無料で実施した。

○夏休み特別イベント

「つくって！縄文グリーンタフのアクセサリーづくり」

・日時：8月11日(金・祝)

10:00～12:00, 13:00～15:00

・参加者数：131人



夏休み特別イベント

○秋休み特別イベント

「つくって！縄文－拓本しおりづくり－」

- ・日時：10月7日(土) 10:00～12:00, 13:00～15:00
- ・参加者数：6人

○冬休み特別イベント

「つくって！縄文－土面を塗ってみよう－」

- ・日時：12月23日(土) 10:00～12:00, 13:00～15:00
- ・参加者数：42人

○春休み特別イベント

「つくって！縄文－石のビーズストラップづくり－」

- ・日時：3月23日(土) 10:00～12:00, 13:00～15:00
- ・参加者数：35人

③発掘資料整理体験講座

山田上ノ台遺跡の発掘調査で出土した土器や石器などの遺物に触れ、歴史を身近に感じてもらうねらいで実施した。実際の整理作業と同じような遺物実測や拓本取りの作業体験が主な内容であった。

- ・日時：11月19日(日) 10:00～14:00
- ・参加者数：4組7人

④週末体験講座

さまざまな縄文体験を企画し、事前申込み制で実施した。

参加者アンケートによる満足度はどの回も高く、縄文時代に興味・関心を持っている様子がうかがえた。

- ・「石器の見方、つくり方」
4月16日(日) 10:00～12:00 参加者数：15人
- ・「縄文スープづくり」
5月21日(日) 10:00～13:00 参加者数：22人
- ・「樹皮でつくるポシェット」

7月2日(日) 10:00～12:00 参加者数：21人

・「縄文スープづくり」

9月10日(日) 15:00～18:00 参加者数：19人

・「干支のアクセサリーづくり」

11月12日(日) 10:00～14:00 参加者数：7人

・「びっくりドキドキ土器づくり」

1月14日(日) 10:00～14:00 参加者数：23人

・「編布でポケットティッシュカバーづくり」

3月3日(日) 10:00～14:00 参加者数：4人



週末体験講座縄文スープづくり

⑤縄文の森講座

縄文時代についての最新情報や発掘調査についてお話いただいた。また会場・オンラインの併用で実施した。

○第1回「考古学史における松島湾の貝塚・大木囲貝塚」

- ・日時：12月10日(日) 13:30～15:30
- ・参加者数：31人(会場21人 オンライン10人)
- ・講師：田村正樹氏(七ヶ浜町歴史資料館)

○第2回「大洞貝塚を知る～考古学史の視点から～」

- ・日時：1月21日(日) 13:30～15:30
- ・参加者数：27人(会場17人 オンライン10人)
- ・講師：村田匠氏(大船渡市教育委員会教育総務課)

○第3回「仙台発掘最前線!! 2023」

- ・日時：2月25日(日) 13:30～15:30
- ・参加者数：34人(会場24人 オンライン10人)
- ・講師：三浦一樹氏, 須貝慎吾氏, 木村恒氏(仙台市教育委員会文化財課)

⑥縄文まつり・縄文コンサート

春季・秋季のまつりのほか、地域の学校や活動団体によるコンサートを実施した。

○縄文春まつり

- ・日時：4月29日(土・祝) 10:00～15:00
- ・内容：コンサート(佐々木舞&高田志保ほか 計6団体)、各種工作体験、弓矢体験 ほか
- ・参加者数：560人

○縄文秋まつり

- ・日時：10月14日(土) 10:00～15:00
- ・内容：東アジア考古学研究所、天童市西沼田遺跡公園、スリーエム仙台市科学館のワークショップ、Sonido del Viento&渡辺圭一、和太鼓「飛竜の会」のコンサート、クイズラリーなどをおこなった。
- ・参加者数：330人



縄文秋まつり

○縄文コンサート

- ・9月30日(土) 10:00～11:00
仙台市立人來田小学校ブラスバンド部
参加者数107人
- ・2月24日(土) 13:30～15:00
オカリナ縄文会
参加者数：55人

⑦野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつめる“じょうもん”」

縄文時代の植生を復元した野外展示を、地域住民や学校と共に作りあげることが目的とした事業で、毎年近隣の太白小学校1年生を対象として、太白山自然観察の森でクリやクヌギなどの種を採取し、植え付けを行った。

- ・10月17日(火) 9:30～11:40 種子採集
- ・3月8日(金) 10:15～12:00 植え付け
- ・参加者数：59人

⑧学校・地域連携促進事業

事業団の自主事業。山田上ノ台遺跡や縄文文化とは何であるのかを地域の人々に知っていただく機会を設け、近隣の小中学校や地域の市民センター・児童館との結びつきを深めることで、縄文の森広場がより地域に根差した施設となることを目的とする事業である。

「ハナちゃんの仲間 スイーツづくり」

小学生を対象に、楽しみながら考古学を学ぶドッキークリを開催した。

- ・2月24日(土) 13:00～15:00
- ・講師：おかしあそび考古学者ヤマラさん(下島綾美氏)
- ・参加者数：12人

⑨展示手法の開発と導入

事業団の自主事業。3次元データ計測とリビング・ヒストリーの2つを軸に今後の展示計画を検討した。令和5年度は、国際交流の促進と国際活動の市民への還元を目的としたワークショップを実施した。また、シンポジウムでは、文化財の保存や活用に対しての日韓の違いを主な議題として議論を行った。

i) 縄文秋まつりワークショップ「韓国の先史時代遺物づくり」

- ・10月14日(土) 10:00～15:00
- ・韓国・東アジア考古学研究所職員3名
- ・参加者数：330人

ii) 国際ミニシンポジウム「パブリックアーケオロジって何？」

- ・10月15日(日) 13:30～16:30
- ・講師：岡村勝行氏(東淀川調査事務所 所長)、イ・ファジョン氏(韓国 漢陽大学博物館研究教授)
- ・参加者数：41人(会場12人、オンライン29人)



国際ミニシンポジウム

⑩運営懇談会

当館の活動を紹介し、地域の町内会や小・中学校、市民センターなどの方々の意見をいただき、事業に反映させるために実施するものであるが、当年度は近隣小学校への聞き取りを行った。

(3) 体験活動事業

①各種体験活動

i) 随時体験

「火おこし」は当日受付で、「土器づくり」「勾玉・石のアクセサリーづくり」「石器づくり」「編布づくり」などは事前予約制で実施した。

・参加者数：4,612人

ii) 団体の見学・体験

令和5年度は97組の団体から見学・体験の申込みがあり、延べ人数は3,083人である。団体の内訳は市内の小学校を中心に、県内外の小・中学校、デイサービスセンターなどである。体験活動は勾玉づくりや石のアクセサリーづくり、土器づくりなどである。新型コロナウイルスの行動制限も解除されたことから、県外の団体も増え、令和4年度に比べると大幅に利用団体数が増加している。

iii) 出前講座

小学校・市民センターなどの依頼で、職員が希望の場所へ出向いて体験活動を行った。今年度は市内外の小・中学校やPTA行事、市民センター、児童館、放課後等デイサービス、病院など38件に対応した。

・参加者数：2,236人

②学校教育との連携

i) 利用学習事業

学校の授業の一環として、地底の森ミュージアム及び当館が交通費（バス代）を負担し、体験活動と展示見学を組み合わせた学習活動を行う利用学習事業には、市内18の小・中学校1,134人の参加があった。また、令和2年度から新学習指導要領が改訂され、歴史学習の開始時期が変更になったこともあり、6～7月の利用が中心となっている。本事業の詳細は当館ホームページ上に公開している「利用学習実践報告」を参照されたい。

ii) 博物館実務実習

大学で行われている博物館学の講義の一環として、学芸員資格取得のための実習を行った。館運営に関する講座の

ほか、教育普及の実践として縄文秋まつりの準備や対応、国際シンポジウムの準備などを行った。

・10月11日（水）～15日（日）

・参加者数：3校6人

iii) 教職員機関研修

学校教育との連携をはかる事業の一環として、市内小・中学校教職員を対象に参加者を募集し、教職員利用研修会及び機関研修を行い、当館の概要説明や体験活動の周知を図る。

・日時：8月4日（金） 9:30～12:00

・参加者1名

iv) 職場体験活動

5～11月に市内中学校4校から職場体験の申し込みがあり、対応した。当館の勤務内容を体験するとともに、事業内容などについても説明を行った。これまで来館者の立場で当館を利用した生徒もおり、職員にとっても来館者の生の声を聴くことのできる貴重な機会となった。

・受入：4校19人

v) インターンシップ

令和5年度は希望がなかったため実施しなかった。

(4) ボランティア活動事業

①ボランティア育成講座

ボランティア新規応募者10人および活動を継続しているボランティアを対象に計6回の講座を開催した。内容はボランティア活動の概要、体験活動の技術研修などである。

第1回 4月9日（日） 10:00～12:00

オリエンテーション・施設見学

参加者数：10人

第2回 4月23日（日） 10:00～12:00 土器づくり

参加者数：10人

第3回 5月7日（日） 10:00～12:30 土笛づくり

参加者数：9人

第4回 5月28日（日） 10:00～12:00 勾玉づくり

参加者数：7人

第5回 6月4日（日） 10:00～12:00

編布コースターづくり

参加者数：10人

第6回 6月25日（日） 13:00～15:00 火おこし

参加者数：17人

県内外の施設を訪問する視察研修は10月18日(水)および11月12日(日)に実施した。大船渡市立博物館と陸前高田市立博物館の視察を行い、10月には27人、11月には22人の参加があった(地底の森ボランティア含む)。

②ボランティア会との連携

仙台市縄文の森広場ボランティア会は、当館の運営をあらゆる面で支えるボランティアスタッフが運営する組織である。平成18年5月28日に設立され、令和5年度は58人が会員となった。館と会との連絡・調整は、毎月第4日曜日の定例会を中心に行っている。ここでは、館から翌月の事業に対する協力要請を説明したり協議したりしながら、サポート体制の構築をはかっている。また、記念品・ミュージアムグッズの製作も行っている。ボランティアによる手作りの「勾玉」・「編布」・「土製品」はいずれも好評を得ており、修学旅行の子どもたちや家族づれに特に人気が高い。

以上のような、多岐にわたるボランティア会のさまざまな活動は、当館をより魅力的なものとするうえで非常に重要な役割を担っている。館とボランティア会との連携を、今後より多方面に展開し、強化していきたい。

○令和5年度のボランティア登録者数

・58人(前年度から継続48人+新規10人)

○令和5年度のボランティアの活動実績

・のべ人数：307人

・のべ時間：1,543時間

(5) 調査研究事業

①体験プログラムの開発

体験施設である当館にとって、新規体験プログラムの開発は来館者に飽きを感じさせないための重要な用件である。既存体験メニューの見直し、体験内容と縄文文化をより分かりやすく紹介する方法、および新規プログラムの開発に取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大以降中止していた食体験の実施方法を見直し、再開した。

②復元住居の維持管理

当館の野外広場にて復元・公開している土屋根式竪穴住居を、より良好な状態で維持管理する方法について検討を行った。

③ボランティアスタッフとの共同調査

縄文時代および当館の管理運営に関わる様々な内容につ

いて、ボランティアスタッフと共同で調査活動を行った。

④調査研究報告書

仙台市富沢遺跡保存館と合本で、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2023』を発刊した。

佐藤祐輔(当館職員)・大塚亜希子(秋田県立大学 助教)
「仙台市縄文の森広場野外展示の復元住居柱木材の強度測定と修繕について」

2. 利用状況

令和5年度の開館日数は297日で、その間の全利用者数19,324人であった。前年度の16,618人に比較すると、2,706人増となっている。

体験活動者数は8,987人(団体の複数体験者も含む)で、

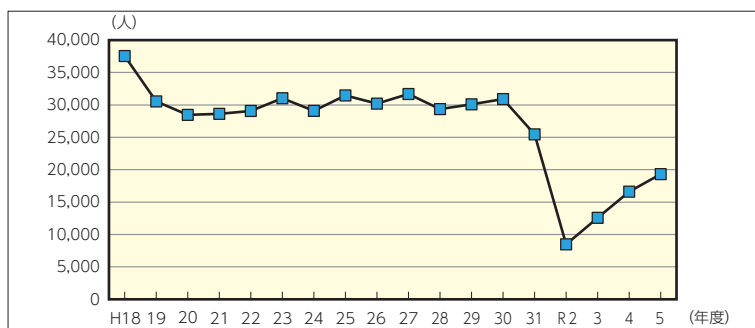
全利用者数の約47%となり、前年より多い。体験活動内容では石のアクセサリーづくりが全体の34%を占めて最も多く、続いて火おこし体験24%と続く。

なお、平成18年7月15日の開館から令和6年3月31日までの入館者の累計は480,600人である。

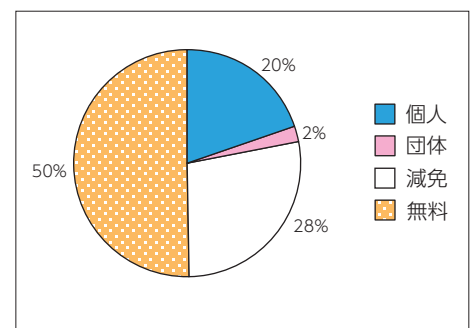
入館状況 (令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

月	有 料							無 料					体験活動者		合計
	個 人			団 体			計	減免			無料入館	計	内、団体体験重複者(-)		
	一般	高校生	小・中学	一般	高校生	小・中学		一般	高校生	小・中学					
4	153	1	16	0	0	0	170	25	0	75	940	1,040	427	0	1,637
5	226	1	40	3	0	28	298	48	0	95	417	560	479	77	1,260
6	166	1	53	45	0	56	321	100	0	847	332	1,279	1,462	1,055	2,007
7	236	3	11	0	0	0	250	47	0	324	454	825	880	201	1,754
8	356	5	54	0	0	0	415	139	0	223	451	813	1,271	68	2,431
9	162	1	53	28	0	78	322	55	0	175	728	958	735	293	1,722
10	214	1	14	0	0	0	229	62	26	336	1,045	1,469	1,158	338	2,518
11	154	0	1	0	0	0	155	158	0	121	485	764	550	89	1,380
12	106	0	2	1	0	0	109	64	0	138	415	617	584	134	1,176
1	112	0	4	0	0	0	116	52	0	118	315	485	374	98	877
2	190	1	4	0	0	0	195	94	0	70	450	614	411	52	1,168
3	186	2	16	12	2	20	238	94	0	93	405	592	656	92	1,394
計	2,261	16	268	89	2	182	2,818	938	26	2,615	6,437	10,016	8,987	2,497	19,324

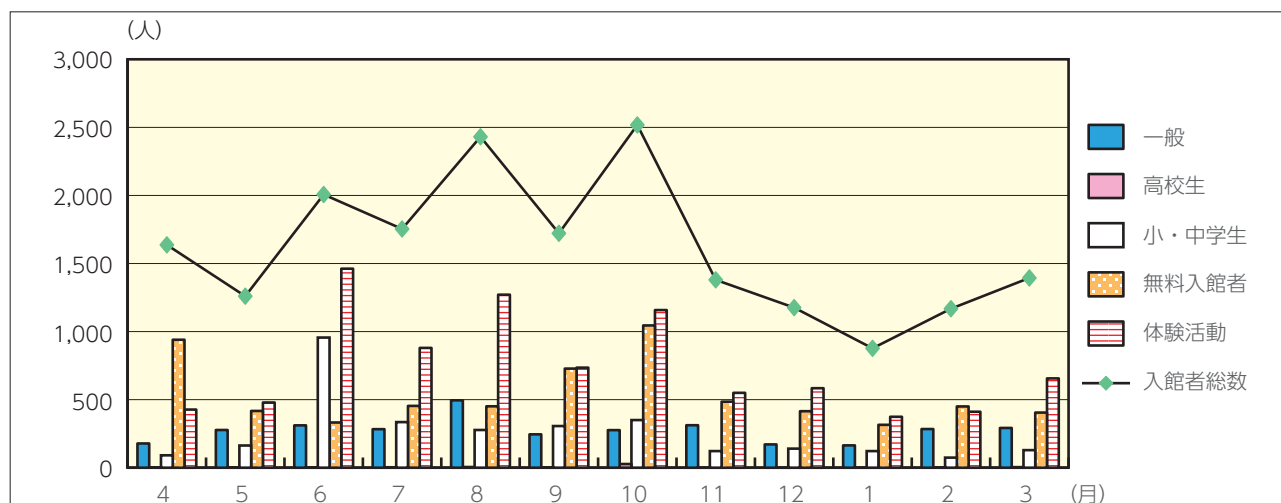
開館年度からの入場者推移



入館者内訳



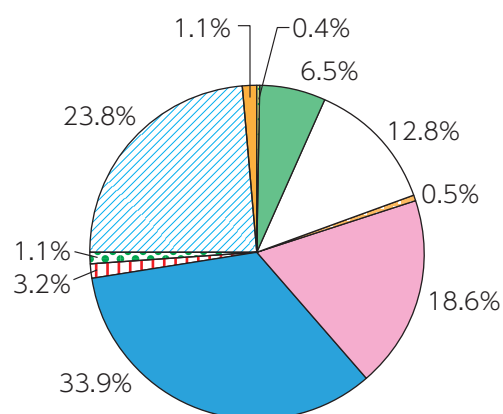
月別入館者数



体験活動数

(団体の複数体験も含む)

月	体験メニュー											合計
	縄文土器(大)づくり	縄文土器(小)づくり	ミニ土製品づくり	石器づくり	勾玉づくり	石のアクセサリーづくり	サメの歯アクセサリーづくり	シカの角アクセサリーづくり	編布づくり(コースター)	火おこし	体験講座	
4	0	28	37	0	60	45	0	3	0	105	8	286
5	0	52	18	0	71	94	0	13	0	96	20	364
6	0	81	268	0	157	764	0	5	0	118	0	1,393
7	0	122	139	6	97	108	0	10	6	141	17	646
8	0	52	137	9	228	117	0	19	37	330	9	938
9	17	18	52	0	107	192	0	8	11	192	16	613
10	0	23	71	5	54	330	0	6	1	312	0	802
11	0	13	15	10	94	198	0	8	4	96	7	445
12	0	9	21	1	308	142	0	3	0	28	0	512
1	12	14	62	1	31	117	0	4	7	38	0	286
2	0	16	28	0	48	99	0	8	4	85	0	288
3	0	27	53	0	60	182	0	7	7	140	3	479
計	29	455	901	32	1,315	2,388	0	94	77	1,681	80	7,052



3. 入館者アンケート

令和5年度は体験教室、講座ごとに参加者にアンケートを行った他、仙台市市民文化事業団の利用者アンケートを12月に実施した。

4. 令和6年度事業計画

(1) 基本方針

仙台市先史遺跡保存活用施設条例及び指定管理事業計画に基づき、「人間と環境を考えるランドマーク」として地底の森ミュージアムと相互補完し合いながら、山田上ノ台遺跡の保存と公開及び縄文時代の資料の保存・調査・活用を行う。また様々な展示・体験・講座等を通して「歴史」に学ぶ活動を展開する。併せて当館の特色として調査・研究活動の成果を基にした「自然と共生した縄文人の知恵」を体験活動などに展開し、芸術分野や他分野との積極的な交流を推し進めながら、各年代層に応じた豊かな「学び」の機会を提供する施設を目指す。

(2) 展示事業

①コーナー展示

宮城県内を含む東北地方の縄文時代から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介する。

i) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—仙台市・上野遺跡—」

- ・会期：令和6年3月19日(火)～6月9日(日)
- ・展示内容：仙台市に所在する縄文時代中期の上野遺跡から発見された縄文土器や土偶、石器やその他土製品等を3Dデータとともに展示した。
- ・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネルなど。

ii) 夏のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—宮城県女川町・内山遺跡—」

- ・会期：7月30日(火)～10月14日(月・祝)
- ・展示内容：宮城県に所在する縄文時代中期の内山遺跡から発見された縄文土器の底部や魚の骨、貝殻などを展示した。
- ・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネルなど。

iii) 冬のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—仙台市泉区・高柳遺跡—」

- ・会期：12月3日(火)～令和7年2月6日(木)
- ・展示内容：仙台市に所在する縄文時代中期の高柳遺跡から発見された縄文土器や土偶などを展示する。
- ・展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネルなど。

iv) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡」内容未定

- ・会期：令和7年3月22日(土)～6月8日(日)

②野外展示「縄文の森広場」植生検討会

※地底の森ミュージアムと共同で実施

第1回：11月中旬予定

第2回：2月予定

(3) 普及啓発事業

①ボランティア育成講座

新規のボランティア10名を募集し、来館者や参加者により分かりやすい説明や体験活動の補助を行うための研修事業。現ボランティアのスキルアップ研修も兼ねる。

第1回オリエンテーションを4月21日(日)に実施し、その後、月1～2回程度実施。

②縄文講座

考古学に関する講演会を実施し、最新の研究状況を取り上げる。オンラインでの配信も行う。

- ・12月8日(日)
- ・1月26日(日)
- ・2月23日(日) 各回とも13:30～15:30

③縄文まつり(コンサート含む)

多くの人に開かれた、また地域密着型のミュージアムを目指して、誰もが気軽に参加し楽しめる総合型イベントを春と秋に開催する。

- ・5月12日(日) 10:00～15:00
- ・10月20日(日) 10:00～15:00

④夏休み子ども考古学教室

小学生及び保護者が、火おこしや物づくりなどの縄文体験を通して縄文人の生活の様子を身近に感じ、縄文時代に関する知識を深めるきっかけとすることを目的に実施。火おこし体験・鹿の角を使ったアクセサリ作りなど親子で

楽しめるメニューの体験活動を行う。

- ・日時：7月27日(土) 10:00～14:00
- 8月17日(土) 10:00～14:00

⑤特別イベント

縄文時代や歴史に関わる、普段とは異なる体験メニューでイベントを行う。

- ・8月11日(日・祝)
- ・10月12日(土)
- ・12月25日(水)
- ・3月29日(土)

⑥週末体験講座

様々な作品づくりや生活体験などを実施し、縄文人の技と心を学ぶ。

- ・4月27日(土)
- ・5月19日(日)
- ・6月30日(日)
- ・9月8日(日)
- ・11月10日(日)
- ・1月19日(日)
- ・3月2日(日)

⑦発掘資料整理体験講座

出土遺物の実測・拓本などの整理作業に参加する体験を行う。

- ・整理体験 11月30日(土) 10:00～14:00

⑧利用学習事業【地底の森ミュージアムと合同して実施】

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主たる対象とし、地底の森ミュージアムと当館の見学と各種の縄文体験による体験学習を行う。

日程：学校側の希望による(6月～3月)

⑨施設利用予約

利用学習事業参加校以外の学校、子ども会、町内会等の各種団体を対象として展示解説や縄文体験を行う。

⑩随時体験

来館者に様々な縄文体験メニューを提供する。土・日・休日・長期休業期間参加者の利便性を高め、より多くの市民が気軽に当館を訪れ体験活動に参加できるよう火おこし体験は予約なしで随時受け入れることとする。

⑪教員機関研修

学校教育との連携事業を推進するために、仙台市内の教職員を対象(定員20人)として当館の概要及び体験活動事業を周知する機会とする。

- ・日時：8月2日(金)

⑫野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつめる『じょうもん』」

野外展示「縄文の森」の利活用の幅を広げるために、地域の団体や小学校などと連携した事業で専門家の指導を受けて太白山自然観察の森で自然観察をする。自然観察によって理解した様子を、木の実や枯れ葉、木の枝などを使って遊びながら自然の移り変わりを理解させる。

太白小1,2年生を対象として10月と11月頃に実施予定。

⑬博物館実務実習

学芸員資格取得をめざす大学生を数名受け入れ、実習を行う。

日時：10月16日(水)～20日(日) 8:30～16:00

⑭職場体験活動

近隣中学校の要請により、中学2年生を対象とした職場体験活動の受入れなどを行う。

日時：5月～12月頃(学校の希望による)

⑮情報発信

- ・ホームページの更新
- ・Facebook, YouTubeの更新
- ・館内の情報提供(揭示物：発掘調査情報、他施設イベント情報)

⑯ボランティア会との連携

- ・定例会開催と館運営の協力依頼
- ・自主的な会活動に対する支援
- ・ミュージアムグッズの共同開発と制作販売の支援

⑰地域と連携

町内会などの地域住民の行事に対しては、共催や後援等の形で活動の場を提供しながら支援を行う。

⑱運営懇談会

運営に理解と協力を得るために事業の紹介をしたり、館の目的に対する意見を受け取る機会を随時行う。

⑱専門研修

実施予定であるが日程は未定。

⑳文化事業団の自主財源事業

- i) 学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」
縄文時代の遺物などを資源とした、他分野との協働作業
開発・実施を行う。
- ii) 縄文の森オリジナルグッズ制作販売
- iii) 展示手法の開発・導入
 - ・縄文土器の3次元データ計測・作成
 - ・リビング・ヒストリー手法の調査

(4) 調査研究事業

- ①縄文時代に関する調査研究
- ②体験活動メニュー、プログラムに関する調査研究
- ③復元住居の経年変化等観察記録・分析にもとづく維持管理に関する調査研究
- ④西側広場一帯の整備に向けた調査研究
- ⑤ボランティアスタッフとの共同調査研究の実施
- ⑥上記の研究成果をまとめた調査報告書を地底の森ミュージアムと合本で刊行
- ⑦2025年度コーナー展示の資料調査

(5) 資料の収集・保管

- ①仙台市から借用保管している山田上ノ台遺跡等の縄文時代を中心とした資料を適切に管理し、各種事業活動に活かす。
- ②事業活動の充実を図るため、縄文時代を中心とした資料、及び縄文時代に関する文献の収集を行う。

(6) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。令和4年度から施行の「仙台市市民文化事業団事業運営に関する基本指針」に沿い業務を進める。

(7) 刊行物

- ①ミュージアム通信 年3回
- ②イベント紹介チラシ 年2回
- ③年報 11月刊行(地底の森ミュージアムと合本で)
- ④調査研究報告書 年度末刊行(地底の森ミュージアムと合本で)
- ⑤リーフレット, パンフレット, 封筒

5. 利用案内

●所在地

〒982-0815 宮城県仙台市太白区山田上ノ台町10-1

●電話およびFAX

TEL 022(307)5665 FAX 022(743)6771

●Eメール j-hiroba@cap.ocn.ne.jp

●ホームページ

<https://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~jyoumon/>

●開館時間

午前9時～午後4時45分(入館は午後4時15分まで)

●入館料・共通券

区 分	個人	団体	共通入場券
一般	200円	160円	490円
高校生	150円	120円	280円
小・中学生	100円	80円	150円

- ・団体は30人以上、引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「仙台市縄文の森広場」共通入場券

●休館日

月曜日(休日は開館)

休日の翌日(休日、土・日曜日にあたる日は開館)

1月～11月の第4木曜日(休日は開館)

年末年始(12月28日～1月4日)

●交通案内

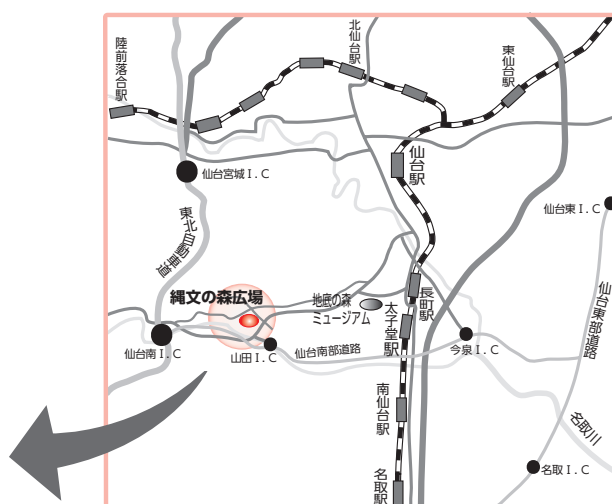
【バス】

県庁市役所～仙台駅～長町駅より宮城交通バス「秋保」「日本平」「茂庭台」「南ニュータウン」行きにて
「山田・太白消防署前」停留所下車徒歩5分

【車】

東北自動車道：仙台南インターから約4km

仙台南道路：山田インターから約1km



地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報 2024

発 行 日 令和6(2024)年11月29日

編集・発行 (公財) 仙台市市民文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館
〒982-0012 仙台市太白区長町南4-3-1 T E L (022) 246-9153

印 刷 今野印刷株式会社
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-10 T E L (022) 288-6123



この印刷物は、環境にやさしい
「水なしLED-UV印刷」で印刷しています。